

世界に先駆けた種子なしビワ品種「3N-N28」の産地定着技術の確立

1 中核機関・研究総括者

千葉県農業総合研究センター 八幡 茂木

2 研究期間

2004～2006年度（3年間）

3 研究目的

千葉県が2003年に世界に先駆け育成した種子なしビワ「3N-N28」は、極めて高い市場性が期待される。ビワの主産地千葉県の南房総地域では、産地振興のために本品種導入の気運があり、産地への円滑かつ確実な定着が強く望まれている。このため、新品種の早期普及に必要な大苗の早期育成、植物生長調節剤の種子なし化处理、出荷果実の品質管理及び権利保護のためのDNA鑑定技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 大苗育成技術の確立（千葉県農業総合研究センター）

加温施設を用いて種子なしビワに適した大苗育成技術を確立する。

② 植物生長調節剤の処理技術の改善（千葉大学、千葉県農業総合研究センター、JA安房温室びわ組合）

植物生長調節剤を用いてビワの種子なし化处理技術を改善する。

③ 非破壊果実品質測定技術の確立（千葉県農業総合研究センター、JA安房温室びわ組合）

非破壊果実品質測定装置を用いた種子なしビワ果実の品質測定技術を確立する。

④ DNA鑑定による三倍体ビワ品種の識別技術の確立（（独）果樹研究所、千葉県農業総合研究センター）

SSRマーカーを用いて三倍体ビワ品種のDNA鑑定技術を確立する。

5 目標とする成果

種子なしビワの産地への迅速な導入と、高品質・安定生産技術の確立によって、世界初の種子なしビワが商品化される。これにより青果市場が活性化され、ビワ産業及び生産地域の振興が期待される。